

# 長井町一上町 歩道整備事業

村上地域振興局地域整備部(平成11年度実施事業)

## 具体的な整備内容を県民参加で検討した事例②

### ◎事業の全体像

村上市長井町一上町間における道路整備において、街路燈のデザインや歩行者サインの設置位置、ポケットパークの位置等を検討するワークショップを開催。ワークショップの運営には専門家が参画しており、実際の現場に原寸大模型を置いてのシミュレーションなど、様々なワークショップ手法を用いて検討を進めた。

#### ポイント!

第2回の整備目標の検討では、前回に出された住民意見を集約し、それをカード化して参加者に提示している。そして「カードを選ぶ」という作業を通じて意見の集約を図っている。



#### <ワークショップの開催状況>

##### 第1回ワークショップ(H12.2.3)

みんなで想いを出し合おう!

- 事業概要の確認
- 歩道整備に対する想いの確認
- キーワードと重要整備ポイントの確認



##### 第2回ワークショップ(H12.2.19)

現地を実際に確認してみよう

- 今回の整備における目標の選定
- 現場確認とシミュレーション
- 歩行者サインの設置案の検討



##### 第3回ワークショップ(H12.3.16)

整備プランを完成させよう

- 歩道整備プラン案のまとめ



#### ポイント!

ワークショップを行う際に大切なことは、「できること・できないこと」や「整備の際に発生する問題点」を、検討段階でしっかりと伝えることである。ここを後出しにしてしまうと、住民から反発が上がり、住民参加・ワークショップどころではなくなるケースが非常に多い。

この事例では、検討過程において、住民意見に対し「懸念されること」「事業費的なこと」などを包み隠さず情報提供した上で、意見を伺っている。地域住民から出された意見に対し、行政側が整備可否の見通しを示す。住民側もそれに基づいて内容を判断する。住民と行政の間で互いの意見をキャッチボールしながら進めていくことは、県民参加型事業にとって非常に重要なポイントである。

#### ■土木事務所からのまとめプランを検討するための補足説明(第3回ワークショップ時)

- ・車の乗り入れ箇所については、最小限にするために、後で、町内だけで決めることとする。
- ・植栽の樹種や配置についても、車の乗り入れに関係してくるので、今回は保留とする。
- ・舗装は、カラー舗装までは、予算内で収まる。
- ・街灯も今回土木事務所で作成した中から選択すれば、予算内で収まる。
- ・モニュメント及び、ポケットパーク内のアイテムによっては、負担金が発生するおそれがある。

# 長井町・上町 歩道整備事業から学ぶ県民参加のポイント

## ポイント！

歩行者サインの設置検討を行う際、原寸大模型を作成し、それを実際に現地に置いて検討を行っている。会議室だけで議論するのではなく、実際に現場に出てシミュレーションを行うことにより、現実性の高い意見が引き出せる。

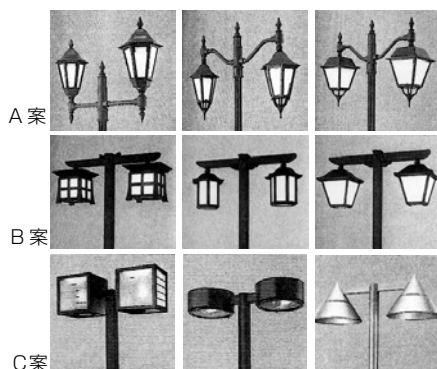


## ポイント！

デザイン検討の際は、具体的なデザイン案や実際に使用する素材（舗装材等）のサンプルを用意し、その中から選んでもらうという方法で検討した。



●歩道の素材 ⇒歩道の素材はBに決定



●街路灯のデザイン  
⇒WSでは、基本的なデザインをBに決め、タイプについては町内会で後日検討してもらうことになった。

## 参加者の感想

- ・ワークショップで出された意見がどの程度取り入れられたのか完成を楽しみにしている。何の為のワークショップだったのかとらないためにも！！
- ・地元の方の一生懸命さがとても感じられた。
- ・どんな長井町になってゆくのかわ大変楽しみにしています。
- ・出席者の意見が納得してまとまりやすい。
- ・地元の方が大変熱心である。
- ・多くの人の知恵が出されて、極めて現実と理想を相乗的なものができたと思大変良かったと思う。
- ・一町内だけの意見や要望では十分な町づくりは困難であるがワークショップを通じ、皆さん意見で非常に勉強になった。
- ・何事も大変なことで多くの人の意見をどんどん聞いてより良い計画になると良いと思う。

## 長井町ー上町 歩道整備事業のポイント

- 歩道整備において、街路燈のデザインや歩行者サイン・ポケットパークの位置という、住民に身近な領域での県民参加を実施している。
- 現地でのシミュレーションなど多様な手法を駆使し、現実性の高い意見を引き出すプログラムで実施している。
- 検討過程で、住民の意見に対する行政側の見解を明示し、更に議論を進めるといった意見のキャッチボールが行いながら進めている。